

鳥取市地域学校協働活動推進モデル事業

【事業の経過及び背景】

- 次代を担う子どもたちの育成において、社会総掛かりで対応することが求められており、地域と学校がパートナーとして連携協働する『地域学校協働活動』の取り組みが国により推進されている。
- 平成29年度鳥取市社会教育委員会議において、地域における社会教育の拠点施設である地区公民館が培ってきた知識や経験等を活用し、鳥取市の社会教育施策の柱として『地域学校協働活動』への取り組むべきとの答申がなされた。

【事業の目的及び内容】

(目的)

- ① 地域による学校「支援」から地域と学校が「連携・協力」して共通の課題に取り組む体制への発展
- ② 地区公民館を拠点とし、地域課題に即した社会教育活動の充実
- ③ 学校と地域社会全体で子どもたちの学びや成長を支え合うことによる、持続可能な地域づくり

(内容)

『地域学校協働活動推進員』を3地区の公民館にモデル的に設置、本市が導入を進めているコミュニティスクールの取組と連携するとともに、地区公民館を拠点として地域で培われてきた社会教育の成果やネットワークを活かした地域と学校の連携・協働の取組を行う。

【モデル地区の選定と地域学校協働活動推進員の役割】

モデル地区の地区公民館に『地域学校協働本部』を設置し、地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員）を配置、生涯学習・スポーツ課に統括コーディネーター（統括的な地域学校協働活動推進員）を配置、地域の実情に合わせた活動を行う。

<モデル地区の選定について>

小学校区を対象とし、大規模校、小規模校、小中一貫校等いくつかのパターンを選定する

<地域コーディネーターの役割（例）>

- ・コミュニティスクールへの参画
- ・地域や学校の共通の目標に基づく、地域住民等の参画による事業の企画・実施
- ・学校支援から地域と学校の連携・協働への転換に向けた指導・助言
- ・学校や地域住民、企業・団体・機関等の関係者との連絡・調整
- ・地域ボランティアの募集・確保・リスト等の管理
- ・地域学校協働本部の構築
- ・モデル事業の取組状況についての情報発信 等

<統括コーディネーターの役割（例）>

- ・地域コーディネーター間の連絡・調整
- ・地域コーディネーターの確保・人材育成
- ・未実施地域における取組の促進